

823
MAN 2

珠江入海

自序

42

白兵部鄉宮

私云此卷以薰君年立之

十四歲

四位侍從

白宮十五歲

光隱後御方々御不分事

三宮御元服之後号兵部以宮矣

夕房右大臣奉渡一条宮於花散里良町事

一条宮与三条殿每月十五日通住給事

薰君為冷泉院御指子於院元服矣

今年二月任侍從事

十五歲

十六歲

秋任右近中將又任宰相

秋源侍從任右近中將矣

秋六秋ノ除日任中將也十四年ノ秋三非廿八也

院御給加階矣

源中將冷泉院中設曹司矣

母女三宮依念佛御行矣

源中將歎吾身非六条院御子之矣

源中將矣香矣

秋任中納言

薰宰相中將叙三位事

けそノ約云十九ノ如ク本年三位ノ宰相トシテ中將トシテ
相モ中將モ叙三位ノ如ク此ノ如ク宰相ノ位ノ如ク
此官ノ如ク叙三位ノ中將トシテ叙三位ノ如ク
白宮思念院女一文治夏
薰中納言三條宮治夏
夕房右大臣以後内侍殿六君為一條宮養子夏
於六条院之行賭弓還餐夏 示時夕房右大臣兼左大臣ナリ

白兵部口官

或白宮一名薰中將

以詞為卷名

河海物語不詳ノ世人ハ少クハ昔ハ官ナリ中將トナリ
花鳥雲隱ノ後、薰大納言ノ年齢トシテ年記ヲ立ル。けそノ
薰十ノ如クエ指シテ始テ傳授トシ。十九ノ宰相中將ト
シテ叙三位トシテ六ノ如ク叙三位トシ。

秘、卷名以初号之兵部口官也。又薰大納言トシテ一作青代六ノ如ク
隠居スルノ如ク古人ノ難トセリ。相トシテ無名義河海花鳥等トシテ香ノ
如クナリ。雲隱トシテノ人ノ逝去ノ事トシテ古來同事トシテ、秘トシテ此
初トシテ叙三位トシ。但ヒ他志ノ或ハ云ク、此ハ、和歌ノ月ノ如ク
トシテ、和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。
延長帝少時、此ハ、和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。
け所ノ内ノ少クハ、和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。
乃ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。
不書此況、和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。和歌ノ如ク叙三位トシ。

そよりけり小源氏が御入り紙行りさし多様も及又仰一紙
れり御入り仍畧之化念之趣向云々云々云々

幻書と此白宮ノ書と曰九年如下一けりよりハ蓋乃年餘
の記さるるし幻書とてハ五冊ハ今年十月少少元服の事

六より十三まで此ハ皇孫の中小ゆつりくわくしあり
寄せ此書とて記難乱りあり紀より元多ハ十月より十九

までハ御書とてありしとあれども廿甲の書中とて此よりあり
異記ハ此幻書の次のより蓋二月少元服とあり九月

蓋幻日五ハ此書ノ始小十月よりとあり廿ハ此書ノ入りあり
蓋十月少少二月元服と秋中御少少と又十九よりと位宰相

小伝正とありあり下の並来小并字少少とハ此書ノ混乱
よりあり別ハ抄物ハ先皇孫を此書を此書

此書少一冊少載之仍畧之又秘あり

光之通好いし一後

六條院前好いし

源氏此書ハ此書ハ

文屋康秀

白 源氏此書ハ此書ハ

秘 光之通好いし一後

源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

秘 源氏此書ハ此書ハ

日押く六条院より白も羞し一而小養育とりて
云々の白も官君と羞し二而の交の由りなりありて官の
若君といつても六條院より出くつて三君と源
氏此源官の若君をいふなりしと云ふはつふら哉
いと申すもさだむらふ也

今九世に後群れれども若れ源ノ世小比等也にて為るに流く是も
他志の批判之語くも流くもすく建るもすく

かよのつひ人さゆふもくくはるふあまあしく
此句は羞むの事ゆふもくく建るもすくはるふあまあしく
心根本として源の世も流くくはるふあまあしく
源氏れれおろせしそゆふり世の若くも流く
さ流くもくくはるふあまあしく

源氏の出来なり人のうふあ源のわかれ時なり人のみ流
こよのつひ也是も源氏の世威光なり也
いかにの世もくくはるふあまあしく
源氏志の相重帝此
は時れれもくくはるふあまあしく

源と大者なりものねもすひあ源にせし出くは流くは
その人とも又わかれのあもくくはるふあまあしく
源小の出来なり人のうふあ源のわかれ時なり人のみ流
おろせしそゆふり世の若くも流く

け一白身物ぬ源のな流くはるふあまあしく
白蓮れ自ら流のつひあまあしく也相重帝小か源人
も世小出おろせしそゆふり世の若くも流く
るくもくくはるふあまあしく
源の威光のつひは
事なり若君の流くはるふあまあしく世の若くも流く
ゆくはるふあまあしく

米菴院の源今上中一白身子明石中宮れ也
今上明石中宮
白れ宮院より流くはるふあまあしく

くやまきさうくは里小

秘 二條虎ひり

女一宮ハ六條院ハ右此町ノ東の對小

秘 宮とれ此方ニ女一宮此方ニ宮

女一宮ハ東宮ニハ一殿宮とすや〜〜〜六條院の東ハ

對小ニ世の北あり〜〜〜はり

物タリ〜〜〜

宮との事又源秘とす〜〜〜

義 或ハ宮秘

ニ文も同〜〜〜

秘 白文の月後の見事秘

ニ文も東宮もハ一後毒意とハ曹司少時ハ六條院の庭後と

ハ体而少〜〜〜中宮とす〜〜〜

秘 中宮を言わぬはり

右ハ所不在ハ中宮

秘 夕房ハ秘

此ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

今此其美ハ位小つさ〜〜〜

〜〜〜

大ハ此方ハ〜〜〜

秘 夕房ハ

義 夕房女子六人あり

此ハ此方ハ〜〜〜

け白文ハ〜〜〜

人ハ此方ハ大姫忌を言宮人あり申宮ハニ文ハ〜〜〜

きさい宮も 明石申文

け此方ハ文も 白文 十六六女ハ夕房具女ハ

右ハ此方ハ

秘 好又ハ此方ハ

右ハ此方ハ〜〜〜 日極の物ハ

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右ハ此方ハ〜〜〜

右蓋相師輔公

登子尚侍

重明親王上

三君

重明公室

大威 法苑傳 卷

く降りなきも此の秋はさ海りのあて 兼源北西のちかきあまの

まじりなきのさ海にふまふあひし

心さ海を深くももけ人乃悲いつくさや

是乃公さうりいさ小なるくもぬしもおちえゆさ海物とるん

ありなきくらりさめてさも様花をそせ世中ささくけうけ道と

花鳥秘目引之 河海花鳥にありさくらの此方波出也

ささくらしあさあてさも物さくさ何秋様さういささ海

ゆさうと云初めればけすもゆさうと何道と

私身ノ引か如何ありなく此方波也

花鳥秘目引之 花鳥が位さくさ誰賞春平古引家ありさくらのさめさく

いさ橋られもらりさくささうり何さくさ人さうりさめさく

さくらしらさくささくさくさくさくさくさくさくさくさく

此詞ありさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

院のさくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

名れまもさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

秋好し源氏兼れさくさくさくさくさくさくさくさく

十月小二月小ゆ後さくさくさくさくさくさくさくさく

兼此二月小ゆ後小任中おさくさくさくさくさくさくさく

多し初は四年此屋さくさくさくさくさくさくさくさく

十六兼入秋除目小中お小任さくさくさくさくさくさく

花鳥に十六の秋除目小中お任さくさくさくさくさくさく

紀のお返さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

秋右中お小女て 兼自侍任右中將例

栗田剛白道兼天元二十二二侍従寛和二十七十六右中将自

侍従年中任羽林例 宇治剛白頼道 兼保五三元 元服 日八日侍従

兼一 頼道公侍従之任日カリ有テ羽林ノ更不書之記是れ

中将ノ書て又三年此ゆさくさくさくさくさくさくさく

一兼中将小女さくさくさくさくさくさくさくさくさく

師ありさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

冷泉院御給し

秘 冷泉院御給し 四位小叙よりし 異 花鳥同

いしふの公りしむるこみり ちりりし人ともさるる子達此昇りしと

秘 冷泉院らりしむる對ふは御せりしとみり 異 同 冷泉院の中對ふは曹司なり

とつりし西流りしむる 異 冷泉院し

うみおもまも 異 冷泉院秋好中官なり 秘 異

院ありしむる 冷泉院々申し

而し 此大いしめ 女御とす 異 同

秘 冷泉院ハ西子とす 女官一は 柏木此いりしと 冷泉院一衆なり

弘キ女ときりしむる 異 同

おとつりしむる 異 冷泉院此女一之の也なり

さしめ 如此白切下 蒸次大切小なりしと 女一之小侍芳なり

秘 秋好中官此西御元 月小侍なりしと 女一之小侍は 蒸次 異 同

冷泉院の女も 秋好中官なりしと 女一之小侍は 蒸次 異 同

蒸次 秋好中官此西御元 月小侍なりしと 女一之小侍は 蒸次 異 同

自書ありしむる 併秋好此御元 月小侍なりしと 女一之小侍は 蒸次 異 同

母之今も 秋好中官なりしと 女一之小侍は 蒸次 異 同

けしめのおりしむる 異 同

いとわられしむる 女一之の道は 蒸次 異 同

いそりしむる 異 同

母之の孝心 蒸次 異 同

おとれむらふ 蒸次 異 同

れ子 蒸次 異 同

宮中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

蒸中 蒸次 異 同

らむとて... 心は... けり

せん... の... けり

秘 他流... 羅服別名... 末受事... けり

柏... けり

夫 中ん... 羅服... けり

巧... 羅服... 見... けり

若... 羅服... 得... けり

何 耶... 羅服... 經... けり

生... 羅服... 則... けり

瞿... 羅服... けり

毛 耶... 羅服... けり

多... 羅服... けり

會... 羅服... けり

如... 羅服... けり

偈... 瞿... 羅服... けり

瞿... 羅服... けり

城... 羅服... けり

子... 羅服... けり

者... 羅服... けり

大... 羅服... けり

羅... 羅服... けり

疏... 羅服... けり

菩... 羅服... けり

云... 羅服... けり

妹... 羅服... けり

義... 羅服... けり

父... 羅服... けり

已上... 羅服... けり

お... 羅服... けり

蓮の公小づひゆきわい六条院のゆきとくよりいふもあまもつ

ちりつてかみくぬく柳本れきといふらんまれば又六条院のゆきれつ

世小月いれゆり是又とてはあゝぬも也又業まらに名始

ゆきゆり理ゆれは法つよるふ連にあ身小向ふゆりゆりゆ

小あ魚とち初て則けりよいゆゆゆ人しゆいゆゆゆ法

つよいゆゆゆゆ惟能善者といつる小ゆゆゆゆ

出せよまのゆゆいゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

蓮の一をゆゆゆてすゆゆゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

てちり面ゆゆ六条院のゆきゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

おしつゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘

秘 明石中より
秘 けしさいの宮ハ明石中より

おしひうりの中わしゆく六條院にておひしゆり事し

私より六條院中宮後のまゝと一川おしゆり

を傷小むせれく 秘 けしさいの宮ハ明石中より

院のおりれりし 秘 源氏し末小生れく 兼

者れおし 兼 夕方なり

しゆく老君しかりし 秘 源氏のし

そのしゆり人しゆり 秘 源氏と大后二条大后と

おしゆりしゆり 秘 源氏のし 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

はしゆりしゆり 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

秘 鳥院より 兼 是日

後れおのしゆり 秘 源氏小陽居あるゆりしゆり

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

けしゆりしゆり 秘 兼 素美鳥宮此悪事ハ日神

おさくとりもつをさるるも 果 不自語し

秘 母のひなもともあはれし 果

いづつあはれし 果 蓮香ひきてるわし 果

そはなく袖をのふ梅 果 美らうら 果 此初 果 何れ 果

也 果 母のひな 果 此 果 母のひな 果 母のひな 果

長由 果 此 果 二首 果 一首 果 一首 果 一首 果

秋 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

川 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

不 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

と 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

お 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

ね 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

人 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

梅 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

と 果 母のひな 果 母のひな 果 母のひな 果

秘 蓮花 果 萬葉梅 果 万葉梅 果

長 果 梅 果 此 果 此 果 此 果 此 果

世 果 人の 果 世 果 人の 果 世 果 人の 果

果 女郎 果 花 果 吹 果 花 果 吹 果 花 果 吹

休 果 田 果 休 果 田 果 休 果 田 果 休 果 田

あ 果 け 果 け 果 け 果 け 果 け 果 け

い 果 つ 果 つ 果 つ 果 つ 果 つ 果 つ

秘 花 果 香 果 花 果 香 果 花 果 香 果 花 果 香

な 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り

又 果 万 果 葉 果 万 果 葉 果 万 果 葉 果 万 果 葉

あ 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り

と 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り 果 り

ま 果 れ 果 れ 果 れ 果 れ 果 れ 果 れ 果 れ

志 果 志 果 志 果 志 果 志 果 志 果 志

何
よふ人の志は高きより下りて百年と云ふも
志高き葉條物
志高き葉三兩叢
白樂天

その聲のきこえしは
去る野の露のれは
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

御母ハ政仁ハ長女
白文の心

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は
よふ人の心は

おふゆわらふ

御門后乃取をそしなり

今上ハウツリハ御父し

あしの中まハ姉の心なり

あしの中まハ

凡俗冬ノト

日本紀凡人とも書り

あつらふあは

英父と申しり小知ぬし

あつらふあは

秘 柏木此のし小あふり

て心操もあつらふ英父あつらふ人あつらふ

三美の 白まなり

院乃姫王此わたり

美 冷泉院の女一宮し

御門后のうらみあわけり

秘 心 ころハ女一宮と冷泉院より立なれり

あつらふ人とし

美 けぞふ心とむへくハけま

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

秘 三美此風情し人とし

美 蕉の身に自然と

美 蕉の身に自然と

美 蕉の身に自然と

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

あつらふ人とし

公ミコの御ミコトの御ミコト

秘

いふに記すしとあひなりし

まればらうゆらん世のくまひハ

秘

世にまゝしき中にて

仰らん世に連るしをいふしおりののりハ

秘

此段めつしき世に記す此まゝしき末に記す

此段のしき

右のおととも

夕葉なり

秘

是より又名あはれしとれしと名ノ字あはれと記す

あはれしと名ノ字あはれ

秘

行はれしと名ノ字あはれ

秘

右に記す世に連るしをいふしおりののりハ

まればらうゆらん世のくまひハ

秘

夕葉なり

秘

いふに記すしとあひなりし

公ミコの御ミコトの御ミコト

秘

いふに記すしとあひなりし

一条文のしきあはれしと名ノ字あはれ

秘

夕葉なり

秘

右に記す世に連るしをいふしおりののりハ

まればらうゆらん世のくまひハ

秘

世にまゝしき中にて

仰らん世に連るしをいふしおりののりハ

秘

是より又名あはれしとれしと名ノ字あはれと記す

秘

右に記す世に連るしをいふしおりののりハ

まればらうゆらん世のくまひハ

秘

此段めつしき世に記す此まゝしき末に記す

此段のしき

右のおととも

右のしき

秘

是より又名あはれしとれしと名ノ字あはれと記す

秘

右に記す世に連るしをいふしおりののりハ

まればらうゆらん世のくまひハ

秘

いふに記すしとあひなりし

公ミコの御ミコトの御ミコト

賭射 清和天皇貞観二年二月十八日始之

賭弓ハ天子弓場高小弓也弓矢ハ鏡弓也

仲夏の月弓矢を射し詠記より出づり四府

左右を東
左右を西

舎人射之左右大射射之此後射之

小宴ハ夕べしを酒ハ管飲如所なり

七月賭弓... 此大御室... 還餐と...
事... 此大御室... 還餐と...
弘仁年正月始之 賭弓... 正月十七日或延引十八日就

弘仁年正月始之 賭弓... 正月十七日或延引十八日就
弓場殿行之 四府舍人射之 大藏有進 昨日射道勇物
出居次將着座 出御警蹕 次召王門之着座 取弓

矢大將進奏文 置弓并矢腰取奏後 御境の後大將以文浩一座
上... 今日射午交右也 召左右少將右ノ奏之左右之

奏之右少將... 儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

愛重 内膳 次伏御膳 御簾中光伏御膳 射手垂袖路居供
之立持左右各々舞 羅陵三袖獲利 勝方 乱色 次舞

的付 將木 讀度敷 文付上 勝方大將奏可給禄餐由
持之時ハ不設 弓... 還餐也

後撰相模... 儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

儀次懸的 木工 等判着 次射 矢取渡面
延喜 人數八左右近 各十人兵 各七人 勝方得行罰酒十度射焉

きほららるればいつてさしなく

秘

明石中宮御殿

さきさきわつしむりあはれ申一あつらふ事し
禮いのたれあつらふ事し
は物終左ふふてさす

大畧左指し繪合酌ゆさき皆左の指しさきさいのと書り
元物合ハ皆左と揚ふとさきさいハ合し申一左ふ指し
付とさきさい此物終し繪合酌ゆさき皆左の指し
れ例ふ指しと例といふ

うき事さき大おまきさきさ

夕暮左大おまきさ

兵部ハ常陸左名つとのみのさき
白兵部ハ常陸官四位五

位中務ハあつらの申さき

宰相中將ハ 秘 美右れまけさきさきさきさきさき

秘 車なり

少子此名の指し納右大毎

夕暮此名の指し

嫡男母之条上

三男之條上

さき物終しとさきさき

さきさきさきさき

これとさきさきさきさきさき

如常

さきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

下ノ座と云中さきさきさきさきさきさき

さきさきさき

秘

阻下し

結解し

さきさきさき

秘

凡俗の座とさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさき

ハし女風俗二段

桐子名六合十二

ハし女さきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさきさき

求女子哥

拾遺集云

大中長能宣物

時さきさきさきさき

子子振立申し松の枝とさきさきさき

さきさきさき

秘

初之儀

さきさきさきさきさきさきさきさき

舞此さきさきさきさきさき

屋ハわさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさき

於 瑞鳥小文いさういね毒のむらにこそ似たるあらしり けり

秘 笑子常月兩首

蕉の極も夕言いさういねと女房

いさういねと女房

蕉の真法ゆりしむらさきりて

右此正しむ

果 蕉よりいさういね

秘 夕言此初蕉ハヤシげいさういねハ出亭少くハ別られ物いさういねと

いさういねと女房 蕉よりいさういね

少くいさういねと女房ハ神のいさういねと 神此正しむ 求子の二股に

右此正しむハ蕉れ多ういさういねと此後句ハ若菜下を此初蕉

ハ一方此大いさういねとハ日俗神のいさういねと云いさういねと

秘 神のいさういね 求子常月二股れいさういねと 若菜下此初蕉

何なりあ若菜下ゆびゆいさういねのとさういねとハ例のいさういね

笑ハせれ二股めいさういねとハ脚音ハ 海云いさういねとハ口二方

此大いね俗名神れいさういねとハいさういねとハ定れあしとハ

いさういねとハいさういねとハ 笑云いさういねとハ初蕉ハいさういね

れいさういねとハいさういねとハ 一會のいさういねとハ下れいさういね

右ハ笑云いさういねとハいさういねとハ

笑云源氏一巻のいさういねとハいさういねとハ

いさういねとハいさういねとハ

